

## アームダンパーの効果(4)

—ThorensTD124(2)—

### 1. 始めに

前報(1)の結果を受け、素材を替えるなどして、ThorensTD124のアーム RMG-212での効果を確認します。

### 2. アームダンパーの試聴計画

前は、手芸用のフェルトを加工しましたが、より密度の高い研磨用のフェルトを使用してみます。



研磨用のフェルトは手芸用のフェルトより硬めになっており、可動部と固定部の隙間に挿しこめませんので、スライスして厚みを調整しましたが、まだ硬めで少し無理に押し込むかたちになっています。



試聴する音源は次のとおりです。

ドイツグラモフォン MG-2037

チャイコフスキー Overture “1812”

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

PHILIPS 28PC-3

ムソルグスキー 展覧会の絵「キエフの大門」

コリン・ディヴィス指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

### 3. アームダンパーの試聴結果

チャイコフスキーの **Overture “1812”** は、低弦やティンパニや砲撃を模した音に注目して聴いていきます。ムソルグスキーの展覧会の絵「キエフの大門」は、チューバやグランカッサなどの質感と量感に注目して聴いていきます。

研磨用のフェルトで製作したダンパーを使用しますと、**Overture “1812”** は、低弦やティンパニや砲撃を模した音が明瞭になり量感が増しますが、全体として音が硬めになります。

展覧会の絵「キエフの大門」は、チューバやグランカッサなどが明瞭になり量感が増しますが、弦の艶が後退し、全体として音が硬めになります。

そこで、前報(1)で使用した手芸用フェルトに替えますと、低音楽器の質感や量感はそのままだ、響きがよくなり弦の艶も問題はありません。

フェルトを使用する場合は、アームの可動部と固定部の隙間より、弾力のある軟かいフェルトを少し厚めにして使用するのが良さそうです。

### 4. まとめ

研磨用のフェルトを切り抜いたアームダンパーを **ThorensTD124** のアーム **RMG-212** にセットする効果を認めましたが、副作用もあり、当面、前報(1)で使用した手芸用フェルトのダンパーを使用していくことにします。

以上